

CTや血管造影所見による炎症性肺疾患の手術適応： 喀血症例を中心に

著者	遠藤 俊輔，大谷 真一，斉藤 紀子，長谷川 剛，佐藤 幸夫，塚田 博，金井 義彦，手塚 康裕，村山 史雄，蘇原 泰則
雑誌名	日本呼吸器外科学会雑誌
巻	17
号	3
ページ	263
発行年	2003-04-01
権利	日本呼吸器外科学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00134232

WS2-5 CTや血管造影所見による炎症性肺疾患の手術適応・咯血症例を中心に

¹自治医科大学, ²宇都宮社会保険病院, ³国際医療福祉病院

遠藤 俊輔¹, 大谷 真一², 斉藤 紀子¹, 長谷川 剛¹,
佐藤 幸夫¹, 塚田 博¹, 金井 義彦¹, 手塚 康裕¹,
村山 史雄³, 蘇原 泰則¹

(目的) 咯血で緊急手術を施行した炎症性肺疾患症例の臨床病理所見を再検討し手術適応を考案した。(対象) 大量咯血(200ml/日以上)で手術を施行した25例男性18例女性7例。6例は陈旧性肺結核, 3例は肺気腫, 4例は中葉症候群を合併。4例は開胸術の既往。11例は1年以上前から咯血の既往があり, 5例は初回発症。(方法) カルテと電話にて調査。(結果) 咯血前の23例のCT所見では12例が空洞性病変を有し, 8例が限局性無気肺, 1例が腫瘍, 2例が無所見だった。21例の血管造影所見では, 9例が気管支動脈由来で12例が胸壁動脈を含む複数の動脈由来だった。塞栓術を施行した8例中6例は複数動脈由来で, 内4例は3日以内に再咯血し手術となった。気管支動脈系の5例は造影所見に乏しく塞栓術を行わなかった。区切/葉切は17例, 2葉切以上は8例。術後合併症は8例(32%)に発症し, 呼吸不全3例/胸腔内出血3例/有癭性膿胸2例。病理所見では真菌12例/非定型抗酸菌症1例/異物1例/細菌1例/器質化肺炎10例であった。呼吸不全による在院死と術後9年後の脳卒中で死亡した2例を除き再発していない。(結語) CTで空洞を有し, 血管造影で多数の血管が認められる耐術可能症例では早期の外科治療が望ましい。